

助成受給団体名	ふりがな えさしちくぼうはんきょうかい 江刺地区防犯協会
事業の名称	沿岸被災地交流事業
実施期間	平成25年8月1日
実施した事業の内容(200字以上500字以内に収めてください。)	
<p>奥州市立江刺第一中学校生徒(20名)が大船渡市立越喜来中学校を訪問し、生徒会の交流と被災地の現状把握を行った。お互いの活動を見つめ直すことで、同じ岩手に生きる中学生として今後の地域活動や生徒会活動についてより深く考える場とした。</p> <p>生徒会交流は、「共に自分たちができることを考えよう」をねらいとし、テーマを「生徒会活動を通じて私たちができることを見つめ直そう」「中学生が元気で一生懸命なら、地域が活性化する」と設定した。</p> <p>内容としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①グループエンカウンターによる交流の場の雰囲気作り</li> <li>②学校及び生徒会活動の紹介</li> <li>③事前アンケートを基に学校の良さや改善したい点の洗い出しと、グループ討議による意見交流</li> <li>④自分の地域をより良くするために、自分たちに何ができるか</li> </ol> <p>以上4点について、話し合った。</p>	
事業の成果(200字以上400字以内に収めてください。)	
<p>始めにエンカウンターを行うことによって、交流全体を通して越喜来中と江刺一中の両生徒が共に笑顔で進めることができ、互いの活動について質問し合うなど、生徒間の距離を縮めることができた。</p> <p>話し合いでは、学校や地域の活性化のために、自分たちにできることや同じ中学生として共通して取り組めることを挙げ、地域の特性や学校規模の違いがあっても、共に岩手の未来を担う者として、地域貢献できることを確認し合うことができた。</p> <p>2年連続で参加した生徒は、改めて被災現場の様子を目の当たりにし、復興が進みつつある現状に喜びながらも、まだがれき等が残されていることや建物が解体されていくこと、町の再生までにまだ道のりがあることについて深く考えることができた。</p>	
今後の課題	
<p>現中学生は被災当時は小学生であり、内陸部で生活していることもあって、経年とともに被災地に寄せる思いが薄れつつあるように見受けられる。生徒会交流として越喜来中学校を訪問しているが、話し合い活動だけでなく、被災地で作業的な活動や江刺で職場体験活動など、一緒に取り組める方策を考えたい。</p>	

